

島根県人口の減少傾向が続く中、多くの若い世代に島根で暮らすことを選択してもらうことは、地域の活性化に欠かせません。「島根創生計画」を掲げ、人口減少に打ち勝つて、笑顔で暮らせる島根を目指す丸山達也知事と、県内唯一の国立大学として、地域のステークホルダーと協働して次世代を切り拓く人材育成に努める服部泰直学長に、産官学協働による「島根創生」の実現について話を聞きました。

### 若者や子どもたちを増やし人口減少に打ち勝つ

丸山知事（以下知事） 島根県の人口は長らく減少傾向が続いている現在は約67万人です。人口減少に打ち勝つためには、次世代を担う存在を島根に増やすことが必要です。若者や子どもたちが増えて活気にあふれ、県民一人人が愛着と誇りを持って幸せに暮らし続けられる島根を目指し、2020年3月「島根創生計画」を策定しました。実現のため、第一に掲げたの

が、県内各産業の活性化によって所得を向上させ、魅力的な仕事を増やすことです。バラエティに富んだ、ボリュームある産業を活性化させ、「島根には働きたい場所がない」という声を解消します。

島根の合計特殊出生率は1・69と全国2位（2020年）。育児をしながら働く女性の割合も全国トップクラスです。保育所の待機児童ゼロなど、子育てと仕事を両立しやすい環境が整っていますが要因だと考えています。今後、市町村とも協議しながら、放課後児童クラブのニーズへのさらなる対応や、子ども医療費助成制度の充実などを図ることで、今以上に子どもを産み育てやすい地域づくりを目指しています。

服部学長（以下学長） 県内に定着する学生を育てるために、まず、現在約2割程度の県内高校出身の入学者を増やすことが重要だと考えています。特に医学を含む理系学部の定員数は全体の約3分の2を占めるにもかかわらず、県内外出身者の割合は15%程度と低いのが課題です。要因の一つは、大学で学ぶ工学や農学系の学問は、小中高校で学ぶ理科や数学の授業か

らはイメージしづらい点です。高校生に、大学での学びだけでなく就職まで意識したキャリアパスを示し、島根で働くイメージを抱いてもらえばと考えます。

知事 県民の暮らしやすさを向上させるのが第1ですが、県外の人には島根的魅力を発信することも大切です。コロナ禍で国はテレワークを推奨しましたが、大企業でも意外と進まず、依然都市部の住民は長距離通勤を余儀なくされています。一方、島根での暮らしは、居住近くでプライベートな時間を持ちやすいのが大きな強みです。豊かなライフスタイルのあり方をもつと発信していきたいと思います。

学長 県外出身者に卒業後、島根に残つてもらうために、偏差値に依存した進路選択ではなく、島根大学や島根そのものに魅力を感じて欲しいと考えています。また、T.S.Kグループ、島根電工業グループ、オネスト等の県内企業からの寄附による県内就職・定着を目指す学生に対する奨学金制度を始めます。県内の様々な方々と協力して卒業生の県内定着を実現していきます。



本対談は、感染防止に努めた上で一部マスクなしでの撮影を行っています。

# 島根大学 学長 島根県知事 服部 泰直×丸山 達也

HATTORI YASUNAO  
MARUYAMA TATSUYA

## 特集1 学長スペシャル対談

# 産官学協働による「島根創生」の実現に向けて

## v o l . 5 0 C O N T E N T S

### 【特集1】

### 学長スペシャル対談

島根県知事 丸山達也氏 ..... 01

### 【特集2】

### SDGsの取り組み

..... 05

### 【特集3】

### 大学発ベンチャー「PuREC」

..... 07

### ■留学生・留学体験紹介

..... 09

### ■島根大学の研究・地域貢献事業紹介

①教育学部 長谷川 裕之 准教授 ..... 11

②医学部 大野 智 教授 ..... 15

③総合理工学部 小暮 哲也 准教授 ..... 15

### ■社会で活躍する卒業生

..... 17

### ■たたら通信

..... 19

### ■しまだい便り

..... 21

### ■学生広報サポーター企画

..... 23

### ■サークル紹介

..... 24

### ■島根大学支援基金より

..... 25

### ■読者プレゼント

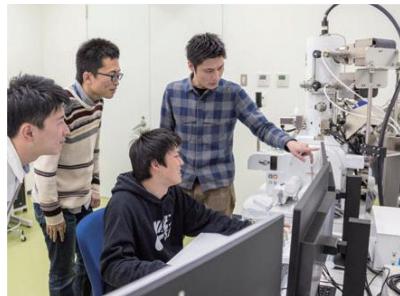
..... 25

表紙／対談を行った服部学長と丸山知事

企画・制作  
株式会社メリット

デザイン  
有限会社node

タイトルロゴデザイン  
松鶴印刷所デザイン室 森脇 祥吾



研究棟の最新機器を使って学ぶ学生の様子

ます。デザイン思考やデータサイエンスを学ぶとともに、長期インターンシップで企業との研究にも参加。オックスフォード大学との連携を核に国際性もしっかりと育みます。アントレプレナー・シップに富んだ有為なエンジニアを輩出していくたいと思っています。

**知事** 一社の企業では成し得ないことも、研究機関と行政、複数の企業が協創するプロジェクトだからこそ実現できるのです。島根は人口が少なく、企業数も少ない。しかしそれはハンディではありません。またなりがあり、顔が見える関係だからこそ、意思決定が早く状況変化にも対応できるの

## 地方創生を実現する

知事

地方創生を実現するためには、人間の人生選択のトレンド

を変える必要があります。たとえば今まで進学するなら県内

より山陽や関西、偏差値の高い大

学、住むなら人が多くてぎやか

で、電車がいっぱい走っているよう

な町がいいとされてきました。選

択肢が多い場所が輝いている町、

地方は、負けていた

“ー”といつた東

京中心の価値観がメディアなどによつて流布されました。

しかし、近くに大きな繁華街や

です。コロナ禍で航空機業界は大きなダメージを受けていますが、研究自体はストップしていません。「しまね産学官人材育成コンソーシアム」や「次世代たたらプロジェクト」を通して、多重的にコミュニケーションを取ってきたからこそ、確実に需要が戻ってくるアフターコロナに対応できると考えています。時間はかかるかもしれません

が、最終的には、県内企業でプロジェクトの成果を製品化するという形のアウトプットが理想です。

あります。

また、オックスフォード大学の

「プロジェクト」を通じて、多くの

時間を通勤に費やし、ラッシュに

まれている人も多くいます。若く

健康な人にとっては良くても、乳

幼児や高齢者、彼らと生きる人た

ちにとっては暮らしにくい面も少

なくありません。今まで、東京

の良さだけが社会全体の価値のよ

うに発信されてきました。しかし

人生というスパンで生活全体を考

えれば、東京と遜色ない良さが島

根にはあります。行政はもちろん、教育界、産業界それぞれが島

根で暮らす良さ、東京にはない価

値を努力して伝えていく必要があると思います。

あると思います。

あると思います。